

全学共通授業科目について

全学共通授業科目と担当組織

1. 全学共通授業科目とは

全学共通授業科目とは、本学の教学規則に定める教育課程のうち、教養教育に相当する教養原論・外国語科目・情報科目・健康・スポーツ科学・共通専門基礎科目などの全学部に共通する授業科目をいいます。

2. 全学共通授業科目を担当する組織

大学教育推進機構国際教養教育院

大学教育推進機構は、大学教育推進本部、国際教養教育院、国際コミュニケーションセンター及び大学教育研究推進室からなり、そのうちの国際教養教育院が全学共通授業科目の企画・運営を行っています。

また、国際教養教育院の教務関係業務は学務部教育推進課共通教育グループ(鶴甲第1キャンパス)が担当しています。

教育推進課共通教育グループ

教育推進課共通教育グループでは、主に次の業務を取り扱っています。

(1)全学共通授業科目に関する事項全般

- ・教養原論等の抽選登録
- ・試験(定期期末試験・再試験・追試験・留学に伴う繰り上げ試験)

(2)大学教育推進機構国際教養教育院が管理する教室の使用に関する事項

(3)全学共通授業科目における授業中の事故、盗難、拾得物に関する事項

全学共通授業科目に関する通知・連絡

全学共通授業科目に関する通知・連絡は、主に国際教養教育院掲示板(鶴甲第1キャンパス K棟1階)により行いますので、日頃から確認するように心がけてください。

また、大学教育推進機構ホームページや教務情報システム「うりぼーネット」掲示板に併せて掲載する場合もあります。

国際教養教育院掲示板

事務室前の掲示板には、主に全学部学生への連絡事項を掲載しており、K棟フロア内の所属学部別掲示板には、特定の学部学生への連絡事項や所属学部からの連絡事項を掲載しています。(国際文化学部用の掲示板はE棟になります。)

休講情報

休講掲示板はK棟1階とA棟地階に設置しており、当日から3日分の休講情報を掲載しています。

また、教務情報システム「うりぼーネット」からは、全ての休講情報について確認ができます。(携帯電話からも閲覧可)

大学教育推進機構ホームページ

全学共通授業科目授業予定表、時間割、履修・抽選登録、期末試験などに関する情報は大学教育推進機構ホームページにも掲載しています。

教務情報システム「うりぼーネット」掲示板

授業に関する情報のほかに学生呼出やお知らせを掲載することがあります。

<各WebページのURL>

大学教育推進機構ホームページ

<http://www.iphe.kobe-u.ac.jp/index.html>

国際教養教育院ホームページ

<http://www.iphe.kobe-u.ac.jp/zengaku.htm>

教務情報システム「うりぼーネット」

<https://kym.kobe-u.ac.jp/kobe-u/campus>

携帯電話からの休講情報

<https://mob-kym.kobe-u.ac.jp/kobe-m/campus>

教養教育の目的

学生の『人間と社会、人間と自然』に関する幅広い知識と深い洞察力を培い、これに基づいた創造力を涵養するとともに、知的教養人としての使命の自覚を促し、ますます複雑化していく社会の中で適正な批判力と判断力をもって行動しうる知性と能力及び豊かな人間性を育む。

全学共通授業科目の学習目標

教養原論	<p>教養原論は、人類が築き上げてきた諸科学・芸術の創造的な発展の中で学生が専攻する専門分野とそれ以外の分野との関係や、その位置づけについての理解を深めるとともに、幅広い視野から事象を総合的・学際的に捉えることによって、知的活動の基盤となる主体的・実証的に学ぶ態度を育成することを目的とし、以下の区分毎に学習目標を定める。</p> <p>○人間形成と思想 「人間形成」に関わる問題を多角的に取り上げ、人間形成のありようと思想の意義について、8つの科目から学習する。①厳密に理論化された思想（哲学）を知り、理論化の基礎となる推論や論証（論理学）を通して、文化が作る規範と人間の行為との関係（行為と規範）を理解する。②人間の心のメカニズム（心理学）を知り、社会や文化の文脈の中でなされる行動（心と行動）について理解する。③人間が教えたり、学んだりする営みの理論（教育学）を知り、人間形成における教育の役割と意義（教育と人間形成）を理解する。④現代社会における科学技術と規範（科学技術と倫理）との関わりについて①から③で学習した知見から理解する。</p> <p>○文学と芸術 人が生きる上で必要な「豊かな感性と深い叡智」を育むために不可欠な存在である「文学・芸術」について紹介する。 具体的な作品群とその創出者である作家群の紹介を通して、人類史の長い歴史の中でそれらの作品群が果たしてきた積極的な意義、またその複雑で多元的な流れを知り、過去に人類が築き、また現に築き上げつつある文学的・芸術的なものの豊饒さについて、基本的な見識を身につけることを目標とする。 そしてそれらを通じて、人間の「豊かな感性と深い叡智」をはぐくむ言語能力や知覚能力の根源的な重要性と意義について、正確な認識を獲得することをも目標とする。</p> <p>○歴史と文化 人間は時間のなかに生きている。「今」は「過去」に、そして「未来」につながる。この流れのなかで、人間は自然との接点をもち、さまざまな体験をしてきた。そこから共通なものを取り出し、記録し、蓄積する。次の世代は、その蓄積を利用しながら、また新たな体験を加えていく。この総体が文化にほかならず、そこにまた歴史感覚も生まれる。大学におけるさまざまな専門領域も、こうした文化が多様に連関しながら複雑化した網目の一隅を占めるものといえる。「歴史と文化」の名の下にある各科目は、政治と経済、法と社会、科学と技術、芸術とデザインといった個別の文化に焦点を合わせながらも、個別性を超えて、時間のなかに生きる人間の姿を見つめる感覚と能力を養うこととする。それは同時に、履修者ひとりひとりの現在・過去・未来を、その人生の幅を超えて、世界の現在・過去・未来と関わらせる力でもあるだろう。</p>
------	--

教養原論	<p>○人間と社会</p> <p>社会とは不思議なものである。人間は、社会を作らなければ生きていけない。また人間は、社会の中で成長し、さまざまな喜びや満足を得ている。しかしその一方、人間は社会によってしばしば苦しめられる。戦争や貧困、差別や疎外、孤独や強制…。人間が作ったはずの社会には、なぜか人間を苦しめる多くの現象が満ち溢れている。</p> <p>このような不思議で多様な位相をもつ社会に、私達はどのように向き合うべきなのか。それを洞察することは、現代を生きる人間に不可欠な教養であり、同時に多様な人文・社会諸科学における専門基礎にほかならない。「人間と社会」の学習は、こうした社会に関する広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とする。</p> <p>○法と政治</p> <p>法と政治部会では、これから日本と世界を担う学生諸君が、複雑化する現代社会において自らの生活をよりよいものとするのみならず、日本社会および国際社会をよくするために能動的、積極的に貢献し、そのために自信をもって意思決定ができる人間に成長できるよう、刑法、民法、憲法、国際法、環境法、道義や規範、社会の諸問題の政治的背景、国際政治など、法学と政治学の講義を問題関心に合わせてバランスよく履修し、必要な法学および政治学の知識を身に付けてもらうことを目標とする。</p> <p>○経済と社会</p> <p>「経済と社会」では、普段見過ごされがちな「経済のしくみ」の基本概念を学習する。このうち「経済入門」は、経済学を専門としない学生が経済学的な考え方の基礎を身につけることを目標とする。「現代の経済」は、経済学の基本概念を用いて現在の日本や国際社会が直面する諸問題を考察する能力を身につけることを目標とする。「企業と経営」は、社会人として必要になる、企業あるいは経営に関する基礎的な知識を習得することを目標とする。「経済社会の発展」は、日本経済あるいは世界経済の歴史的発展過程を理解することを通じて、歴史における変化の流れを把握し、それが現代に及ぼした影響を考察する能力を身につけることを目標とする。</p> <p>○数理と情報</p> <p>本科目では、我々を取り巻く自然現象や社会現象が我々にどのように関わりを持つか、数学、図形科学、情報科学の立場から学ぶ。「構造の数理」「現象の数理」「数理の世界」では、「かず」や「かたち」の構造や体系、主に解析的手法を用いた数理的考え方、数学的な概念とその展開などについて理解を深めること、「『カタチ』の科学」「『カタチ』の文化学」では、形に内在するさまざまな情報を解き明かし、形のもつ科学的、文化的意味について理解すること、「情報の世界」では、高度に発展を続ける情報化社会で情報や情報機器を安全に扱い活用するために必要な基礎知識をその歴史とともに修得することを目標とする。</p> <p>○物質と技術</p> <p>我々の身のまわりの物質は、分子化合物として化学の視点から理解されるが、よりミクロの視点では、電子と原子核の集合体として物性物理学の視点から捉えることもできる。さらにミクロの極限は素粒子であるが、マクロの極限である宇宙と密接な関係がある。宇宙において、地球を含む惑星系の誕生・進化に関しても理解が進んできた。また現代社会において、我々の生活は多様な人工物や科学技術に支えられている。限られたエネルギー資源・物質資源を地球環境との調和をはかりながら有効活用する技術も重要である。本科目では、物質や技術を題材に、現代社会で利用されている科学的な知識や科学的な物事の捉え方の基本を身につけることを目標とする。</p>
------	---

教養原論	<p>○生 命 と 環 境</p> <p>遺伝子や細胞などの働きをもとに生物が形づくられる基本的な仕組みの解明に伴い、人類は生命と健康を維持するための高度な医療技術を発達させてきた。さらに生活を豊かにするための糧として周囲の生物資源を利用し、改良を加えることで、生態系、さらには大気・海洋・固体地球・惑星系などにより構成される環境の変動と常に密接に関わっている。この科目では生命と環境の関わりについて幅広い視点から学ぶことでその理解を深め、特に医療や農林畜産業に関わる先端的科学技術、およびエネルギー・環境問題と生物多様性の保全など、今日的課題を主体的・実証的に捉える能力を身につけることを目標とする。</p> <p>○総 合 教 養</p> <p>国際協力、EU問題から環境、震災、瀬戸内海、さらには人権問題、男女共同参画、キャリアデザインまでさまざまな現代的トピックスへの理解と関心を深めるとともに、自らの専門分野と関連付けてそれらにどうかかわるべきかを考えることにより、現代に生きる一市民としてふさわしい態度を身につける。また、神戸大学の歴史及び本学の教員が携わっている最先端の研究内容への理解と関心を深め、神戸大学生としてもつべき知識と意識を身につける。さらに講義だけでなく討議や課題学習、野外実習による体験学習、グループ活動を通して問題探究に必要な情報収集・分析、チームワーク、リーダーシップ、コミュニケーション等の汎用技能を身につけることも目標とする。</p>
外国語科目	<p>○外国語第Ⅰ</p> <p>グローバルな情報化社会にあって、日常的、専門的ニーズに即応するための英語の水準に到達し、学生自身の専門に関連する知識に即して英語を自由に活用するとともに、自己の専門領域だけでなく、国際社会で通用する幅広い教養を修得する。</p> <p>○外国語第Ⅱ</p> <p>グローバル化があらゆる分野にまで浸透し、人びとを取り巻く多文化状況が日常化してきた今日、英語プラスもう一つの外国語の基礎的な学力と教養を身に付けることが必要である。そこで独語・仏語・中国語・ロシア語のうち、一つの語学を選択し、1年次では、発音・文法・語彙・文章表現などの初級レベルの基礎的修得を目指す。2年次では、より高度な文法事項の理解や読解力・表現力などの中級レベルの習得を目指す。3年次では、多様なトレーニングを通して、社会・文化背景などの知識を身につけながら、実践的な運用能力をさらに向上させることを目指す。</p>
情報科目	<p>コンピュータなどの情報機器とネットワークにおけるコミュニケーションが必須とされる高度情報化社会において、学生はコミュニケーション技術や情報処理、情報収集・発信技術など有効な情報機器の利用方法を学ばなければならない。また、変化の激しい情報化社会に対応するためにはコンピュータやネットワークに関する普遍的な基礎概念と実践的な知識を同時に理解しておく必要がある。情報科目はコンピュータの操作技術を取得し、情報とその取り扱いに関する正しい判断力を養い、それらを日常生活や社会活動に活用できる能力を身につけることをを目指す。</p>
健康・スポーツ科学	<p>健康・スポーツ科学は、身体と健康・運動に関する学問を学際的な視野のもとで総合化した新しい総合人間科学である。健康・スポーツ科学では、講義と実習を通して、身体運動と人体の機能・能力との関わりについての知識、安全で効果的かつ効率のよい身体運動について、及び生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための知識と実践能力を修得することを目標とする。</p>
共通専門基礎科目	<p>専門教育を受けるための準備や導入として、複数の学部に共通する基礎科目を開講している。各学部で行われる専門教育では、専門分野ごとそれぞれの性質に合わせた系統的そして累積的な知識と技術の修得が不可欠であるが、共通専門基礎科目では、専門科目を理解し修得するための基礎となる知識を身につけ、基礎的な理論を理解し、学問的なものの見方を養うことを目標とする。</p>

授業開始までに確認しておくこと（全学共通授業科目）

1. 授業の実施について

全学共通授業科目（履修申請コード「U 000」）は、4月9日（木）より鶴甲第1キャンパスにて授業開始されます。所属学部専門科目の授業開始日は異なる場合がありますので、注意してください。

※各授業科目の概要是、神戸大学HP内の学外公開用シラバスより確認してください。情報基礎の初回講義で「アカウント通知書」の配付後、神戸大学の教務情報システム「うりぼーネット」から詳細を確認できます。

2. 受講及び履修登録について

科目によっては、学籍番号等により受講するクラスが指定されていますので、時間割表で十分に確認のうえ間違いないのないように履修してください。また、事前登録科目（大学側で履修登録を行う科目）を除き、学生自身で履修登録期間中に履修登録を行う必要があります。登録間違いや登録漏れの場合は、単位を修得できませんので、注意してください。

詳細は、別紙「平成27年度前期 全学共通授業科目の履修について」を参照してください。

※事前登録科目：教養原論（1年前期） 外国語科目（必修科目） 抽選登録により決定した科目 **情報基礎**
2015年度入学生より情報基礎は大学側で事前登録を行います

※履修登録が必要な科目：上記事前登録科目以外の科目（健康・スポーツ科学実習Ⅰを含む）

3. 外国語科目のクラス分けについて

4月7日（火）14時より鶴甲第1キャンパスK棟1階の掲示板に掲載しますので、学部のガイダンスで学籍番号を確認してから、掲示を確認してください。また、必ず指定されたクラスで受講してください。

なお、上の日時以降であれば所属学部の掲示板等でも確認することができます。

4. 「健康・スポーツ科学実習Ⅰ」について

初回講義はガイダンスを行いますので、運動服に更衣する必要はありません。筆記用具及び写真1枚（縦3cm×横2.4cm、裏に学籍番号及び氏名を記入したもの）を持参のうえ、鶴甲第1キャンパス体育館（グラウンド北側）に集合してください。

5. 全学共通授業科目に関する連絡

全学共通授業科目に関する連絡は、主に国際教養教育院掲示板（鶴甲第1キャンパスK棟1階）により行いますので、日頃から確認するように心がけてください。また、大学教育推進機構ホームページや教務情報システム「うりぼーネット」掲示板に併せて掲載する場合もあります。

全学共通授業科目休講掲示板

休講掲示板はK棟1階とA棟地階に設置しており、当日から3日分の休講情報を掲載しています。

大学教育推進機構国際教養教育院ホームページ

<http://www.iphe.kobe-u.ac.jp/zengaku.htm> （履修・抽選登録、期末試験等の情報を掲載しています。）

教務情報システム「うりぼーネット」

授業に関する情報や休講情報のほかに学生呼出やお知らせを掲載することができます。

平成 27 年度前期 全学共通授業科目の履修について

1. 履修全般

I. 履修登録について

原則として所属する学部・学科により指定された曜日・時限(以下「学部指定開講枠」という。)の授業科目を履修するものとします。

履修登録及び抽選登録は、所定の期間(下記参照)にインターネットに接続できるパソコンから本学の「教務情報システム「うりぼーネット」」にログインして行います。(『うりぼーネット利用の手引き』参照)登録間違いや登録漏れの場合は、単位を修得できませんので注意してください。

ただし、科目によっては「事前登録」されている場合(1-III 参照)や、科目を再履修する場合(5. 再履修 参照)なお、履修登録の方法が科目によって異なりますので、受講する科目的履修登録方法を予めよく確認してください。

II. 各登録期間について

科目	学年	内 容	登録(受付)期間等
教養原論	2年生以上	抽選登録期間	うりぼーネット「抽選登録」画面での抽選応募 抽選登録期間: 3月26日(木)9:00 ~ 4月3日(金)17:00 * 抽選結果発表 4月7日(火)時間未定 教務情報システム「うりぼーネット」の「履修登録・登録状況照会」より各自確認してください。
		追加登録期間	4月8日(水) ~ 10日(金)
	1年生	指定科目の変更等	* 抽選登録の結果、空き定員のある科目を対象に <u>教育推進課共通教育グループ</u> の窓口で先着順に受け付けます。(1・2年生併せての受け付けとなり、定員になり次第締め切ります。)
		水曜5限「神戸大学の研究最前線」の登録	* 空き定員や受付時間等の詳細については、4月7日(火)に国際教養教育院の掲示板及び大学教育推進機構 HP にてお知らせします。
	全学年	集中講義 初回授業で履修登録を指示する科目	ガイダンス、授業日程及び登録期間、履修登録の方法等については、別途掲示にてお知らせします。
その他の全学共通授業科目	全学年	時間割表の所属学部(学科等)・入学年度に記載のある科目	うりぼーネット「履修登録・登録状況照会」での登録 履修登録期間: 4月16日(木)9:00 ~ 4月24日(金)17:00
		再履修 受講許可カードは不要 ※「5. 再履修」も参照のこと	初回授業時に授業担当教員に受講許可カードによる受講申請を行う必要があります。 ※詳細は「5. 再履修」を参照のこと
		受講許可カードが必要 ※「5. 再履修」も参照のこと	うりぼーネット「履修登録・登録状況照会」で科目名・担当教員名が登録済であることを各自確認してください。
		事前登録されている科目	

III. 事前登録について

以下の科目については、大学側で登録を行いますので、各自で履修登録を行う必要はありません。WEB履修登録時に登録されていることを確認し、誤りがある場合は速やかに教育推進課共通教育グループに申し出てください。

- ・1年生前期の教養原論(学部指定開講枠)
- ・外国語科目(必修科目)
- ・情報基礎
- ・教育推進課共通教育グループの窓口にて申請した科目
- ・抽選登録により決定した科目
- ・受講許可カードを提出した科目

IV. 履修取消制度について

抽選登録及び履修登録を行った科目について、途中で履修を中止したい場合は、学期毎に設けられる所定の期間に履修を取り消すことができます。

前期: 5月18日(月)~31日(日)

2. 教養原論

I. 1年生(2015年度入学生)の履修について

(1) 学部指定開講枠の履修について

前期の学部指定開講枠の履修については、入学後間もない時期に多数の授業科目から履修を希望する授業科目を選択し、適切な履修を行うことは困難であると判断し、学籍番号により予め履修する授業科目を指定していますので、時間割表で確認のうえ受講してください。

(2) 指定科目の変更について

指定されている授業科目について、やむを得ない理由があり、所属学部の教務担当係で許可を受けた場合のみ、同曜日・時限で定員に余裕のある授業科目の中から変更を認めます。（「難しそう」や「苦手」等の理由では承認されません。）

変更を希望する場合、教育推進課共通教育グループ又は所属学部の教務担当係で配布する「教養原論変更願」を記入のうえ所属学部の教務担当係へ提出してください。

承認された場合、所定の期間（1項参照）に教育推進課共通教育グループの窓口で先着順に登録の変更を受け付けますので、承認印を受けた「教養原論変更願」を提示のうえ、希望する授業科目を申し出てください。

(3) 学部指定外開講枠での抽選登録について

各学期につき1つの授業科目に限り、学部指定開講枠以外（以下「学部指定外開講枠」という。）から抽選に応募することができます。

※前期に限り希望者のみ、所定の期間（1項参照）に教育推進課共通教育グループの窓口で先着順に受け付けます。

(4) 5限時目開講科目・土曜日開講科目の履修について

・「神戸大学の研究最前線（水・5）」は、前期に限り希望者のみ、所定の期間（1項参照）に教育推進課共通教育グループ窓口で先着順に履修登録を受付します。

・「ESD基礎（持続可能な社会づくり）（水・5）」「企業社会論（木・5）」及び「社会基礎学（グローバル人材に不可欠な教養）（土・3～4）」の履修方法については別途掲示等でお知らせします。

(5) 後期以降の教養原論の履修について

後期からは授業科目の指定がなくなり、各自で教務情報システム「うりばーネット」より抽選登録を行うことになります。

2年生以上と同様の手続きとなりますので、「Ⅱ. 2年生以上（2014年度以前入学生）の履修について」を事前に確認しておいてください。

Ⅱ. 2年生以上（2014年度以前入学生）の履修について

(1) 抽選登録について

所定の期間（1項参照）に教務情報システム「うりばーネット」の「抽選登録」から申請を行ってください。（『うりばーネット利用の手引き』参照）

抽選登録に当選すると原則として科目の削除はできません。専門科目等の時間割と重複しないよう事前に履修計画を立てたうえで抽選登録してください。抽選結果は、所定日（1項参照）以降に教務情報システム「うりばーネット」の「履修登録・登録状況参照」より確認してください。

【参考】

○学部指定開講枠 …所属する学部・学科・年次により指定された曜日・時限（時間割表で確認してください。）

○学部指定外開講枠 …毎学期につき1つの授業科目に限り、学部指定外開講枠から抽選応募できます。

抽選は学部指定開講枠の確定後、定員に余裕のある授業科目に対し行いますので、必ず登録できるとは限りません。

「抽選漏れ」となった場合の追加履修はできません。

※「(2)学部指定外開講枠における履修の特例措置について」の対象となる学生を除く

(2) 学部指定外開講枠における履修の特例措置について

以下の学生は特例措置として、学部指定外開講枠を含む全ての曜日・時限から抽選登録ができます。（抽選登録できる数の上限はありません。）

- ・卒業対象学年の学生
 - ・進級判定（準ずるもの含む）対象学年の学生（当該年度の後期に限る）
 - 医学部、理学部物理学科（3年生）、工学部（3年生）、海事科学部
- ※2015年度の特例
- ・2013年度以前入学生、医学部及び海事科学部の2014年度入学生
 - ・医学部及び海事科学部の2015年度入学生（当該年度の後期に限る）

(3) 抽選登録の遅延について

主に登録遅延の学生を対象に所定の期間（1項参照）に空き定員のある科目について教育推進課共通教育グループ窓口で先着順に追加登録を受付けます。

3. 外国語科目

I. 必修科目のクラス指定について

必修となっている授業科目についてはクラス指定があり、事前登録していますので、WEB履修登録時に登録されていることを確認してください。

1年生のクラス分けについては、4月7日（火）14時より国際教養教育院の掲示板に掲載しますので、授業開始日までに確認しておいてください。

II. 外国語第Ⅰのアドバンスト・コース科目について

2年次以降に開講され、基礎コース（英語リーディング、オーラル）の英語力を前提として、TOEIC、アカデミック、ライティング等特定の領域に焦点を絞って学習することができます。原則として少人数制で授業を行います。授業内容や申請方法等の詳細については、別途掲示を参照してください。

※履修できない学部があります。所属学部の学生便覧等で予め確認してください。

III. 外国語第Ⅰのグローバル英語コース（GEC）について（文・国際文化・発達・法・経済・経営対象）

創立記念日（5/15）に実施される英語外部試験によるプレイスメントテストに基づき、約250名の学生が1年後期よりグローバル英語コース（以下GEC）に選抜されます。選抜された学生は英語リーディングⅡ・英語オーラルⅡ、英語リーディングⅢ・英語オーラルⅢ（国際文化学部及び法学部は英語アドバンストに代替）をGEC用のクラスで履修します。なお、GEC用の英語クラスをGEC以外の学生が履修することはできません。

IV. 外国語第Ⅲについて(○○語ⅩⅠ, ⅩⅡ)

2年次に開講され、外国語第Ⅱを修得した外国語第Ⅲ学生を対象に未修の語学について履修が認められています。

※履修できない学部があります。所属学部の学生便覧等で予め確認してください。

4. その他の科目

I. 健康・スポーツ科学について

原則として学部指定開講枠で履修登録してください。

「健康・スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ」は、初回の授業でクラス(授業担当教員)を決定しますので、決められたクラスの履修申請コードで履修登録してください。

初回の授業は体育館に集合してください。

その他詳細は大学教育推進機構健康・スポーツ科学教育部会のHPをご確認ください。 <http://www.edu.kobe-u.ac.jp/iphc-hsport/Hsports/Home.html>

II. 情報科目、共通専門基礎科目について

学部指定開講枠で履修登録してください。

学部によっては学籍番号によりクラスを指定していますので、時間割表で確認してください。

III. その他必要と認める科目について

「総合科目Ⅰ」、「総合科目Ⅱ」については、テーマが異なる場合、繰り返して履修することができますが、卒業要件の取扱いは各学部により異なりますので、学生便覧等で確認してください。

5. 再履修(配当年次以降の学生が履修する場合)

配当された年次以降の学生が未修得・未履修科目を履修する場合は、再履修手続きとなりますので、以下の手順に従って手続きを行なってください。

授業科目名	受講許可カード	学部・クラスの指定	備考
外国語科目	必要	なし	GECコース用のクラス(クラス番号がPSA, GEM)は再履修できません。
健康・スポーツ科学実習Ⅰ	必要	あり	
情報基礎	必要	あり	月・5限の再履修クラスを受講してください。
数学科目	必要	あり	・受講許可カードの承認印は、数学共同研究室(C416)で受けてください。 ・再履修クラス(5時限目)の場合、受講許可カードは不要です。
実験・演習科目	必要	あり	クラス指定や抽選等を行なう場合がありますので、事前に掲示で確認してください。
その他	不要	あり	

I. 受講許可カードについて

「不要」の場合は、履修登録期間に教務情報システム「うりぼーネット」より登録してください。

「必要」の場合は、担当教員の承認が必要なため、以下の手順に従ってください。

- ①「受講許可カード交付願」を所属学部の教務担当係又は教育推進課共通教育グループで受け取り、必要事項を記入のうえ初回の授業までに教育推進課共通教育グループに提出し、「受講許可カード」を受け取ってください。
- ②初回の授業で担当教員の承認印を受け、必要事項を記入のうえ教育推進課共通教育グループに提出してください。(各自、履修登録を行なう必要はありません。)
- ③うりぼーネットの履修登録画面にて登録されていることを確認し、誤りがある場合は速やかに教育推進課共通教育グループに申し出てください。

「受講許可カード交付願」は、受講許可カードを交付するうえで必要の有無を判断するためのものであり、再履修を承認するものではありません。

受講許可カードは、交付願に記入した授業科目に限り使用してください。不正とみなされる使用が判明した場合は、履修を取り消します。

II. 学部・クラスの指定について

「なし」の場合は、学部指定外開講枠で履修することもできます。

「あり」の場合は、原則として学部指定開講枠で受講してください。(学部指定外開講枠の授業を再履修しなければ修学が困難と認められる場合は、学部指定外開講枠での履修を許可することができます。この場合は受講許可カードによる手続きが必要となります。)

III. 新旧読み替え措置について

カリキュラム改正に伴い、現在開講されていない授業科目については、読み替え措置を行っています。詳細については、別途掲示を参照してください。